



創立50周年記念誌

Mt.Fuji view from Shimizu Port

平成27年12月

公益社団法人 日本技術士会中部本部静岡県支部
旧 静岡県技術士協会

会員の皆様 創立50周年記念おめでとうございます。

50年の長きにわたり活動してまいりました 旧「静岡県技術士協会」は、2015年3月31日に活動を停止し「公益社団法人日本技術士会中部本部静岡県支部」に引き継ぎました。これまでの活動を総括し未来へ引き継ぐため本記念誌作成を企画いたしました。

本誌はこれからの皆様の活動の資料としてご活用願います。

公益社団法人 日本技術士会中部本部静岡県支部 支部長 山下久吉

目 次

1. 50年の歩み	2
2. 役員年表と活動記録	7
3. 活動の思い出	17
3.1. 浙江省との技術交流	17
3.2. 産学官セミナー	18
3.3. 歴代会長の思い出	19
3.4. 感謝状と記念品贈呈	22
4. 県支部発足について	23
4.1. 支部化に至る経緯	23
4.2. 静岡県支部設立記念式典 開催報告	24
4.3. 静岡県支部の事業計画	30
4.4. 支部規約(案)	35
4.5. 静岡県支部活動への期待	39
編集後記	40

1. 50年の歩み

公益社団法人 日本技術士会中部本部静岡県支部 支部長 山下久吉

1. 創立期から10年までの経緯

静岡県の技術士の集まりが発足したのは、昭和40(1965)年9月22日に静岡県内の技術士試験合格者の調査で43名になったことが判明し、発起人5名がこの技術士試験合格者に会設立の呼びかけを行ったのが始まりで、その名称が「静岡県技術士協会」です。

昭和40年10月26日に発会式が静岡駅前の日興会館（現ブケ東海静岡）で行われ、その様子がTVニュースや翌日の静岡新聞・日刊工業新聞等に紹介されました。

その翌年3月には当協会は静岡県経営合理化協会に入会し、初代会長がその協会常務理事に就任しました。その後（社）日本技術士会主催の技術士試験セミナー協力や、（社）日本技術士会と共催の「電気応用による技術開発」に関する講習会開催、昭和42年より商工会議所からの技術診断や産業公害相談員派遣要請に当協会の技術士を派遣、さらに資格認定協会とタイアップした建築士や土木施工管理技士の講習会に講師を派遣しました。

昭和46(1971)年には会員名簿を発刊しておりますが、このとき個人会員数は73名となりました。また賛助会員を増加して加入企業は21社にのぼるようになりました。この時期に当協会のPRパンフレットを発行し、名簿とともに関係諸官庁、外郭団体等に配布して当協会のPRにつとめております。昭和49(1974)年には会報の発刊準備を進め、翌年3月28日付で会報第1号を刊行し



ております。

昭和50(1975)年11月には静岡市産業会館にて創立10周年記念式典を挙行了しました。

2. 創立10年から30年までの経緯

この頃は昭和48(1973)年の石油危機に端を発した景気の低迷時期ではありましたが、それを跳ね返すように、引き続き技術士試験セミナーの開催、商工会議所からの専門技術者派遣依頼への対応等の他に、官庁や各界からの講師を招聘した公開講座や研修会を多く開催しております。この時期は公害対策や省資源・省エネルギー対策に終始しました。

景気回復の兆しがみえはじめた昭和60(1985)年11月16日、静岡商工会議所大ホールにて創立20周年記念式典を挙行了しました。この頃は東海地震危機説が拡がり、県内では地震対策関連の行事が多く行われてきました。またこの頃はバブル景気が始まろうとする年でもあり、景気上昇に合わせた協会活動の活発化として、協会会員を

講師としての研修会・講演会も逐次開催されるようになりました。例会では見学会が主となり、県内各企業の生産現場見学を活発に行うようになり、この活動が現在の実施形態として定着しました。

会員数は、創立 20 周年を迎えたときには 113 名を数えることとなりました。またこの時期は国や地方自治体、公共団体等からの叙勲・授賞を受ける会員が多く輩出し、諸先輩のさまざまな貢献が公に評価された喜ばしい時期が続きました。

事業面で昭和 63 (1988) 年には、静岡県日中友好協議会主催の企業診断調査団派遣として、中国浙江省への企業診断や技術指導の要員派遣が開始された年でもあります。その後の天安門事件で一時中断したものの、杭州市へは機械、電気電子、化学、金属、農業、経営工学などさまざまな分野で会員の派遣を行ってきました。また、翌年の平成元 (1989) 年より静岡県西部地区の新居町、舞阪町などの公共事業の監査・監理・検査に係る技術の調査・指導・援助のための会員派遣を行いました。その他の事業としては、中小企業庁中小企業融合化事業団の融合化カタライザー委嘱への会員推薦、静岡県産業技術協会や静岡県中小企業振興公社等からの依頼による各種研修会・講習会への講師派遣、浜松市の公害対策委員への会員推薦、「ハイテク浜松 '95」における技術相談コーナー参加などを行ってまいりました。また宮野正克会員主唱による「次世代生産システム研究会」が平成 4 (1992) 年に発足し、主唱者のご尽力により数年間、県内各地で会の開催を行っております。

これらに遡る平成 2 (1990) 年には (社) 静岡県産業技術協会のご好意により、当協

会事務局としての窓口をお引き受けくださることになり、理事役員の改選に伴う事務局窓口の移転から開放されたことは、特筆すべきことであります。

(社) 日本技術士会とのつながりは、中部支部との連携を介して行っており、昭和 53 (1978) 年には当協会内の (社) 日本技術士会会員を対象とした会を「中部東分科会」という名称にしました。この名称で平成 8 (1996) 年まで 18 年間、(社) 日本技術士会からの情報入手や、中部支部および東海三県技術士会との交流を行ってきました。その間、平成 5 (1993) 年 10 月 13 日に第 20 回技術士全国大会を静岡 (日本平ホテル) で開催し、その折には全国大会実行委員として静岡県の (社) 日本技術士会会員の活動はもとより、多数の非会員も開催準備から実施・運営の協力に参画しました。

平成 7 (1995) 年 10 月 26 日には、静岡のクーポール会館で創立 30 周年記念式典を盛大に挙行了しました。このときの会員数は、20 周年の時期以来の安定した会員数となり、個人会員 157 名、賛助会員は 13 社でした。

3. 創立 30 年から 40 年までの経緯

しかしながら平成 7 (1995) 年以降わが国の情勢は、平成 2 (1990) 年のバブル景気縮小の影響から立ち直ることが難しく、経済面では国際競争の対応としての製造業の海外シフトに伴う産業の空洞化や、規模縮小に伴う組織のリストラクチャリングや人員整理が行われ、民間企業経営の変革が余儀なくされた時期であり、またそのような社会情勢の中で政治改革・行政改革が叫ばれた時期でもあります。

地方自治体でも業務の縮小が行われ、そ

の影響で 4 年間お世話になった(社)静岡県産業技術協会の協会窓口業務を閉鎖せざるを得なくなり、賛助会員である(株)建設コンサルタントセンターのご好意で、平成 7 (1998) 年 4 月に事務局移転をすることになりました。

例会の開催では、景気低迷に伴って見学会候補となる企業の減少傾向や、会合参加員数が 20 名を割る少ないときも時折見受けられたので、平成 7 (1998) 年より例会開催を県の東部・中部・西部各 1 回と年末に講演会を 1 回の計 4 回とし、また例会には研修会を任意に導入するなど参加員数を多くする形態見直しを行いました。

見学会は主な項目を挙げると、山梨県都留市 JR リニアモーターカー実験センター見学(平成 9(1997)年 8 月)、陸上自衛隊富士学校における戦車試乗およびシミュレーション装置による戦車訓練の見学(平成 10(1998)年 7 月)、小柴教授のノーベル賞で有名になった「スーパーカミオカンデ」で使用された浜松ホトニクス(株)の光電子増倍管製造工場見学(平成 15(2003)年 2 月)、日本技術士会中部支部会員参加も含めた静岡県地震防災センター見学(平成 15(2003)年 10 月)などを行ってきました。

事業面では、平成 8 (1996) 年から平成 14 (2002) 年までには、浜名湖競艇事業団のサンマリブリッジ建設や中央スタンド建替え工事の監査に係る指導、龍山村の下村地区飲料水供給施設の調査・管理・改善のための調査・研究、舞阪町の庁舎建設事業の監査に係る指導および総合体育館建設に関する技術調査、日中友好協議会を通じた中国浙江省より委託のバイクエンジン技術指導への会員派遣、静岡県中小企業団体

中央会からの活鰻選別装置に関する対応、浜松市観光企業課への環境審議会委員に会員の推薦、商工会議所や各種協会などから委託の講習会・講演会への講師派遣、損害保険会社からの委託による技術判定などを行っております。

近年では静岡県商工労働部新産業室より委託の中小企業創造活動推進法に基づく認定企業 (50 社) の調査、(財)しずおか産業創造機構から依頼の経営技術診断助言委員会や技術審査委員会への会員派遣、県・農業水産部畜産振興室より委託の「天城放牧場バイオガスプラント」等工事検査に会員派遣を行ってまいりました。また 1999 年には「安全衛生研究会」を発足させ、2 年間に研修会合や企業見学による安全検討会を行ってまいりました。

またこの間に、会員 7 名が国や各団体からの叙勲・授賞を受け、引き続き会員の貢献が認められた喜ばしい出来事がありました。

平成 11(1999)年には静岡県技術士協会のホームページを開設し、現在に至っておりますが、これは開設から管理のサービスを情報工学の山下久吉会員に負うところが大きいです。また会報を平成 10(1998)年 6 月 15 日よりバックナンバーとして掲載しており、何時でも取り出すことが可能です。

(社)日本技術士会活動へは引き続き中部支部との連携を保って、現在に至っております。また最近では、本部委員会の一つである防災特別委員会には中部支部担当委員として伊藤和美会員の参画をはじめ、支部委員会活動へは事業委員会や技術委員会など 5 委員会 (平成 17(2005)年より 7 委員会に増加) それぞれに会員を選出して、他県

技術士会から参加した委員とともに活動の一端を担っております。

しかしこの間、景気低迷が続いた影響は徐々に社会に負の影響を及ぼすこととなり、各企業の業務縮小などが当協会にも影響を与えました。例えば平成 16 (2004) 年 4 月には当協会事務局窓口を、8 年間お世話になった(株)建設コンサルタントセンターから、担当理事役員の連絡先へ持ち回りせざるを得なくなったこと、個人会員及び賛助会員の退会数が増加したことが挙げられます。会員数は平成 17 (2005) 年 4 月現在で個人会員は 153 名 (最大 186 名)、賛助会員は 17 社 (最大 21 社) に推移しております。

4. 創立 40 年から 50 年までの経緯

平成 16～17 年度 会長：木村芳正

平成 18～19 年度 会長：神立 信

平成 20～21 年度 会長：吉澤 淳

理科教育支援事業を始めた。

平成 22 年度 会長：久保嶋 勝巳

一般社団法人中小企業診断協会と覚書交換をした。静岡理工科大学との連携を始めた。県立静岡大学で JABEE のための授業を開始した。平成 22 (2010) 年 6 月 29 日 静岡市との支援提携「災害時におけるえる市民復興まちづくり助言に関する協定」を締結した。

理科教育支援事業が中断となる。

任期 2 年の開始日が中部本部と 1 年相違しており、その調整のため任期を 1 年とした。

平成 23～24 年度 会長：吉田 建彦

平成 24 (2012) 年 1 月 21 日 地域産学官と技術士の合同セミナー「静岡県内の危機管理」を開催した。

平成 25～26 年度 会長：岡井 政彦

公益社団法人日本技術士会中部本部静岡県支部を設立すべく、中部本部の役員選挙に立候補者を募り選挙をした。推薦した候補者が当選した。

平成 27 年度 支部長：山下 久吉

静岡県技術士協会は平成 27 (2015) 年 3 月 31 日をもって活動を休止し、静岡県支部設立準備会を設置し、県支部設立へ向けて活動を開始した。

平成 27 (2015) 年 4 月 18 日に静岡県技術士協会の総会および公益社団法人日本技術士会中部本部静岡県支部設立準備会を行った。静岡県技術士協会の資産は公益社団法人日本技術士会中部本部静岡県支部に寄贈、対外的な契約等は静岡県支部に引き継ぐこととした。

統括本部の方針に従い県独自の会費徴収を中止し中部本部の予算だけで運営をすることとなった。会員数は県支部化に伴い 99 名 (静岡県技術士協会) → 270 名とこれまで静岡県技術士協会に未加入であった日本技術士会の会員が加わり大幅に増加し、今後の活動活発化が期待できる。会員への連絡は従来の書類郵送から E-mail 主体、また、会報の紙での発行を中止し、Web 掲載とした。

平成 27 (2015) 年 8 月 8 日に公益社団法人日本技術士会 中部本部 静岡県支部設立記念式典を開催。正式に静岡県支部が発足し、現在に至る。

5. おわりに

平成 12 (2000) 年の技術士法改正に伴って技術士制度の大幅な改正や、技術者資格の国際相互承認の整備が進められるなかで、従来の技術士の「信用失墜行為の禁止」や

「秘密保持の義務」に加えて、「公益確保の責務」、「資質向上の責務」の遵守が課せられました。

公益社団法人日本技術士会の「技術士ビジョン 21」は、技術士がわが国科学技術創造立国実現の中核的役割を担い、公益確保と環境保全を最優先にして社会に貢献することを宣言し、また「公共の安全、環境の保全などに関わる業務」は、技術士が責任者になるという職業的位置付けとなっています。そのため技術士は、常にプロフェッショナル・エンジニアとしての高い専門能力と高潔な道徳観・職業倫理を持ち、これを維持向上させるために自己の継続研鑽することを義務付けられています。

このような状況の変化に対応するため、今後は技術士継続研鑽としての研修会・講演会の開催をもちながら、県下の公共団体や民間企業の発展に寄与する活動をしていきたいと考えております。活動経費を得るためと会員の資質向上のため CPD 活動を活発化してまいります。

また、公益社団法人日本技術士会のつながりを密にし、近隣他県技術士会との交流を深めて技術士として必要な種々の情報を得ることが求められており、隣県の神奈川県や山梨県各技術士会との交流を検討する時期であると考えております。

われわれ会員一同は、こういった状況にあわせた制度や活動方針の検討を行い、先輩諸氏が残された初心と伝統とを引継ぎつつ、会の発展に尽くして行かねばなりません。

50年の歩み総括表

年号	主な出来事
昭和 40 年 (1965 年)	静岡県技術士協会 発会式
昭和 46 年 (1971 年)	会員名簿発刊 会報第 1 号発刊
昭和 50 年 (1975 年)	創立 10 周年式典
昭和 60 年 (1985 年)	創立 20 周年式典 会員数 113 名
平成 5 年 (1993 年)	第 20 回技術士全国大会 (開催地：静岡市)
平成 7 年 (1995 年)	創立 30 周年式典 会員数 157 名 例会開催を東部・中部・西部で 1 回、年末の講演会を 1 回の計 4 回で実施開始
平成 11 年 (1999 年)	ホームページを開設
平成 17 年 (2005 年)	創立 40 周年式典 会員数 153 名
平成 27 年 (2015 年)	公益社団法人日本技術士会中部本部 静岡県支部設立式典

2. 役員年表と活動記録

創立から50周年までの歴代役員

年度	会長	専務理事	年度	会長	専務理事
1965	岡部 操	遠藤 亀雄	1990	清水 康夫	佐藤 仁一
66	〃	〃	91	〃	〃
67	岡田 直彦	青島 茂一	92	鈴木 仁	名取 友一
68	〃	蓮池 昇	93	〃	〃
69	〃	〃	94	乾 昇	望月 圭佑
1970	加藤 幸男	望月 圭佑	1995	〃	〃
71	青島 茂一	吉永 勝也	96	伊藤 和美	石川 正人
72	〃	五十鈴 幹	97	〃	〃
73	〃	〃	98	渡邊佐一郎	木村 芳正
74	滝口 定一	渡邊 三義	99	〃	〃
75	〃	〃	2000	松本 文雄	神立 信
76	〃	〃	01	〃	〃
77	江間 巖	白柳伊佐雄	02	守屋 文二	吉澤 淳
78	〃	〃	03	〃	〃
79	金澤 徹	西 雅之	04	木村 芳正	久保嶋勝巳
1980	〃	〃	2005	〃	〃
81	渡邊 三義	名取 友一	06	神立 信	斉藤 和夫
82	〃	〃	07	〃	〃
83	加藤 幸男	田代 均	08	吉澤 淳	岡井 政彦
84	吉永 勝也	清水 康夫	09	〃	〃
85	〃	〃	2010	久保嶋勝巳	山下 久吉
86	竹花 健	鈴木 仁	11	吉田 建彦	長嶋 滋孔
87	〃	〃	12	〃	〃
88	蓮池 昇	乾 昇	13	岡井 政彦	山之上 誠
89	〃	〃	14	〃	〃

創立から今日までのあゆみ

日 付	行 事 ・ 例 会 等	会 報
1965 10/8	創立準備	
10/26	創立総会	
1966 4/3	規約改正：名称を「静岡県技術士協会」とする	
1969	規約改正：賛助会員制を敷く	
1972	静岡県分析調査研究会発足、当会会長が副会長に就任	
1974	会報第1号発行(1975. 3. 28付)	3. 28会報NO. 1
1975 11/8	創立10周年記念式典	
1977	規約改正	
1978	(社)日本技術士会中部東分科会設立 慶弔規定決める	
1980	規約改正：名誉会員制度つくる	
1985 11/16	創立20周年記念式典	
1989	創立記念事業の基金創設	
1993	技術士全国大会(於：日本平ホテル)	
1995 10/26	創立30周年記念式典 (会員数150名を超える)	
1996 4/26	総 会 講演：「思いやりの心」 身延山短期大学教授 高橋 堯昭氏	6. 15会報NO. 77
7/10	例 会 全天候型ビル自動施工(スマート工法) 横浜市 見学	
9/4	例 会 静岡県農業試験場 磐田郡豊田町 見学	
10/24	例 会 (協)焼津水産加工センター 見学	9. 15会報NO. 78
12/11	例 会 会員による講演会 ・「ビデオテープからフィルムまで」：北本達治会員 ・「チリの2年間」：佐藤仁一会員 ・「GPSについて」：伊藤和美会員	
1997 2/14	例 会 富士写真フィルム(株) 富士宮工場 見学 ・「ビデオテープからフィルムまで」：北本達治会員	1. 1会報NO. 79
	事 業 (1)浜名湖競艇事業団からの事業監査指導：伊藤和美 会員派遣 (2)龍山村からの飲料水供給施設の調査・研究：渡邊佐一郎 会員派遣	3. 15会報NO. 80
	受 賞 勲五等瑞宝章 平松金一顧問	
1997 4/25	総 会 講演：「我が青春の4004」 嶋 正利氏	6. 15会報NO. 81
6/17	例 会 日本たばこ産業(株) 浜松工場 見学	
8/29	例 会 JRリニアー鉄道山梨実験線 見学	
10/24	例 会 静岡地方气象台 見学	9. 15会報NO. 82
10/25	静岡市油山温泉「元湯館」にて一泊	

日付	行事・例会等	会報
12/9	例会 会員による講演会 ・「地球環境と森林そして木材」：金澤啓悟会員 ・「療養のための衣服」：小杉思主世会員 ・「高速連続鋳造への挑戦」：山内信一会員	
1998 2/16	例会 会員による講演会 ・「コーンインダストリーの現状と展望」：岡田 実会員 ・「福祉・介護の支援技術の展望」：久保嶋勝巳会員 ・「富士山の水環境の現状」：渡邊佐一郎会員 事業 (1) 浜名湖競艇事業団からの事業監査指導：伊藤和美 会員派遣	3. 15会報NO. 83
1998 4/24	総会 講演：「アイディアの出し方」 中村 義作氏	6. 15会報NO. 84
7/7	例会 陸上自衛隊富士学校 戦車訓練の見学	
10/8	例会 三井農林(株) 藤枝工場及び食品総合研究所 見学	9. 15会報NO. 85
12/4	例会 会員による講演会 ・「工場内における部品供給の効率化」：平出岳登志会員 ・「日本の電気料金について」：浅野龍雄会員 ・「見えないものへの恐怖」：寺田洋子会員	
1999 3/2	例会 ヤマハ発動機(株) コミュニケーションプラザ 見学 事業 (1) 舞阪町議会からの事業監査の指導：伊藤和美 会員派遣 (2) 地方公共団体からの依頼に対応：講師派遣等 受賞 厚生大臣表彰 (生活環境改善) 平尾素一会員	12. 15会報NO. 86 3. 15会報NO. 87
4/23	総会 講演：「技術士の見栄——静岡活性化の原動力」 中本 至氏	6. 15会報NO. 88
7/16	例会 沼津工業技術センター インキュベートセンター 見学	
10/22	例会 フジ製糖(株) 本社工場 見学	9. 15会報NO. 89
12/3	例会 会員による講演会 ・「インターネットについて」：山下久吉会員 ・「生けとし生きるものにやさしい川づくり」：富野 章会員 ・「世界と日本の風力発電」：松本文雄会員	
2000 3/10	例会 会員による研修会 ・「本田宗一郎を語る」：加藤幸男顧問 ・「浜松市再開発のねらいとその概要」：野中忠夫氏 事業 (1) 浜名湖競艇事業団からの事業監査指導：伊藤和美 会員派遣 (2) 日中友好協議会への技術指導：神立 信会員 川瀬順治会員派遣 (3) 静岡県管路診断コンサルタント協会の業務講習会：渡邊佐一郎会員派遣 (4) 東京海上火災(株)の調査業務：羽切道雄会員派遣 (5) 静岡県技術士協会インターネットホームページ開設 ：システム管理者を山下久吉会員に委嘱 受賞 勲五等瑞宝章 清水康夫顧問	3. 15会報NO. 90

日付	行事・例会等	会報
4/21	総会 講演：「自然復元と環境創造への道」 富士常葉大学助教授 山田辰巳氏	6. 15会報NO. 91
7/14	例会 沼津工業団地内企業見学及び交流会	
10/5	例会 東海パルプ(株) 島田工場 見学	9. 15会報NO. 92
12/9	例会 日本技術士会中部支部との合同研修会 講演：「工業デザイン製品開発へのIT革命の波」(株)アルテック 小杉隆司氏	
2001 2/3	例会 ロックフィールド静岡ファクトリー 見学	12. 15会報NO. 93
	事業 (1) 地方公共団体等への認知度向上活動	3. 20会報NO. 94
	受賞 (財)日本発明振興協会 白井発明功労賞 清水康夫顧問 同上 考案功労賞 渡邊三義顧問	
2001 4/20	総会 講演：「開発途上国における国際協力(ODA)について」 井上 博正会員	6. 15会報NO. 95
7/19	例会 東レ(株) 三島工場 見学	
11/7	例会 静岡県駿河湾深層水取水施設 見学	9. 15会報NO. 96
12/8	例会 会員による講演会 ・「世界をリードする日本の技術、新幹線の過去・現在・未来」 ：岡井政彦会員、高田允温会員	
2002 3/1	例会 日本技術士会主催、平成13年度産官学セミナーと共催 「新しい食品技術の技術移転に関するセミナー」	12. 15会報NO. 97
	事業 (1) 舞阪町体育館建設に関する監査委託：伊藤和美会員に委託	3. 15会報NO. 98
	(2) (財)しずおか産業創造機構への協力 ：清水康夫顧問、平尾素一会員を講師として紹介	
	(3) 同上、委員会参加：神立会員、松尾理事、金子四郎会員、吉永勝也顧問	
	受賞 法務大臣賞 加藤幸男顧問	
4/20	総会 講演：「高齢化社会の到来と新しい技術文化への期待」 元・県立大学学長 医学博士 星 猛氏	6. 15会報NO. 99
7/6	例会 会員講師による技術研修会 ・「電子写真と環境関連技術」：三枝久芳会員 ・「富士山ハザードマップ中間報告について」：大井寿彦会員 ・「下水道施設のコンクリート腐食と大規模修繕例」：斎 強志会員	
10/11	例会 静岡ガス(株) トンネル作業現場 見学	9. 15会報NO. 100
12/6	例会 会員講師による技術研修会 ・「安全衛生研究会活動について」：山之上誠会員 ・「トンネルの話」：木村芳正会員 ・「ビジネスデザイン法」：清水博之会員	
2003 2/7	例会 浜松ホトニクス(株) 豊岡製作所 見学	12. 15会報NO. 101
	事業 (1) 舞阪町体育館建設に関する監査委託：伊藤和美会員に委託	3. 15会報NO. 102
	(2) (財)しずおか産業創造機構への協力：吉澤淳会員を講師として紹介	

日付	行事・例会等	会報
2003 4/18	総会 講演：「21世紀は環境の世紀」東海パルプ(株)取締役会長 原 健二氏	6. 15会報NO. 103
7/11	例会 日本食品化工(株) 富士工場 見学	
10/25	例会 日本技術士会中部支部との共同開催 「静岡例会」 静岡県地震防災センター 見学 講演：「切迫する東海地震と地震対策」 静岡県地震防災センター専門監 手塚一郎氏	9. 15会報NO. 104
12/11	例会 会員講師による技術研修会 ・「風力発電の近況」：松本文雄会員 ・「富士山ー雪氷の世界から見る」：安間 荘会員 ・「(財)しずおか産業創造機構の紹介と技術士への期待」：石野達佳氏	
2004 2/21	例会 会員講師による技術研修会 ・「太陽熱利用技術の現状と課題」：清水博之会員 ・「風力開発と環境問題」：松本文雄会員 ・「自動車における資源・環境技術」：神立 信会員	12. 15会報NO. 105
	事業 (1) (財)しずおか産業創造機構への委員派遣：吉澤淳会員派遣	3. 15会報NO. 106
4/23	総会 講演：「21世紀のビジネススタイルと日本の中小企業の行方」 (株)スペースクリエイション 代表取締役 青木 邦章氏	6. 15会報NO. 107
7/15	例会 (株)木村鋳造所 御前崎工場 見学	
10/29	例会 企業による品質管理手法の紹介 (セミナー) 「TPMと工場運営」：日本理化製紙(株) 望月 敬氏	9. 15会報NO. 108
12/17	例会 会員講師による技術研修会 ・「異種技術接点における技術開発の実際と事例紹介」：久保嶋勝巳会員 ・「技術士の展開」：佐藤仁一会員 ・「第二東名高速道路、進捗状況と建設技術概要」：寄川壽明会員	
2005 2/25	例会 ローランドディジー(株)、ローランド(株)研究所 見学 特別講演 ローランド(株)特別顧問 梯 郁太郎氏	12. 15会報NO. 109
	事業 (1) 中小企業金融公庫からの技術評価/鑑定依頼：木村芳正会員派遣 (2) (財)しずおか産業創造機構への技術審査委員の派遣：久保嶋勝巳会員派遣	3. 15会報NO. 110
4/21	総会 講演：「自動車排気ガス処理触媒と環境」 (株)キャタラー 水上友人氏	6. 15会報NO. 111
7/17	例会 SBSマイホームセンター 富士展示場 見学 講習会 「地震対策技術について」 ：東海オペレータ(株) 志村楨弘社長、上野幸男次長	
10/15	創立40周年記念式典 静岡市：クーポール会館 記念講演 「立ち向かおう！ 迫りくる東海地震」 静岡県地震防災センター 防災指導専門監 手塚一郎氏 パネルディスカッション 「地震発生から復興への三日間」 座 長：吉澤 淳会員 パネリスト：手塚一郎専門監、伊藤和美会員、稲葉弘之会員 小杉思主世会員、山下久吉会員	9. 15会報NO. 112

日付	行事・例会等	会報
12/10	例会 会員相互による討論会 テーマ 「静岡県技術士協会の変革を考える」	
2006 2/14	例会 静岡ろ布有限会社 OMソーラー「地球のたまご」見学	3. 15会報NO. 113
4/29	総会 講演：「静岡大学における産学官連携の紹介」 静岡大学イノベーション共同研究センター副センター長 木村雅和教授	6. 15会報NO. 114
7/15	例会 危機管理・情報管理の昨今の動向について会員による研修会 ・「報道から読み解く最近の事例」：稲葉弘之会員 ・「最近の情報管理の状況」：野々垣智樹会員 ・「技術士と危機管理、情報管理」：木村芳正会員	9. 15会報NO. 115
10/21	静岡市駿河区登呂 静岡新聞本社 見学	12. 15会報NO. 116
11/25	例会 会員講師による技術研修会 ・「ミルク由来タンパク質ラクトフェリンの不思議な働き」 ：清水洋彦会員 特許情報活用支援アドバイザーによる講演 ・「センター特許電子図書館（IPDL）の効果的活用について」：吉田典江講師	3. 15会報NO. 117
2007 4/21	総会 講演：「静岡県の経済・産業の情勢」：(財)静岡経済研究所 副理事長 佐藤克昭氏	6. 15会報NO. 118
	例会 やまと興業(株) 見学	
7/21	例会 「技術士の活動と組織化」についての意見発表及び意見交換 ・「経験した組織化のメリットとデメリット」：久保嶋勝巳会員 ・「静岡県技術士協会の活性化策について」：牧内弘明会員 ・「技術士の活動と組織化について」：石野達佳会員	9. 15会報NO. 119
10/6	例会 「富士山静岡空港建設現場」視察	12. 15会報NO. 120
11/24	例会 会員講師による相互研修会 ・「最新の新幹線を支える技術」：岡井正彦会員 ・「富士山の宝永噴火と土砂災害」：高尾和宏会員 ・「中小企業の省エネ対策」：森稔夫会員	
2008 2/15	例会 東海旅客鉄道株式会社浜松工場を視察研修	3. 15会報NO. 121
4/19	総会 講演：「地球規模の環境問題と私たちの役割」 静岡理工科大学学長 荒木信幸氏	6. 15会報NO. 122
9/24	例会 公開セミナー ・「技術士の活動と概要」：北本達治会員 ・「公的支援制度の現況とあらまし」：静岡県産業部商工振興室長 渥美敏之氏 ・「特定共同組合ソシオ・テクニカ設立と概要」：久保嶋勝巳会員	9. 15会報NO. 123 12. 15会報NO. 124
12/21	例会 会員講師による相互研究会 ・「海外漁業協力の現状と課題」：近藤 衛会員 ・「私の技術経験 -S Q C 手法の育成支援」：竹内義明会員 ・「明電舎における新エネルギー、省エネルギーの取り組み」：松熊五徳会員	3. 15会報NO. 125

日付	行事・例会等	会報
2009 2/20	例会 静岡県工業技術研修所 浜松工業技術支援センター施設見学	
4/25	総会 講演：「生物の超技術」：静岡理工科大学教授 志村史夫氏	6.15会報NO.126
7/24	例会 (株)明電舎沼津事業所見学	9.15会報NO.127
10/31	例会 特別講演「デジタルものづくりとIT」静岡文化芸術大学 望月達也教授 会員講師による講演 ・「スウェーデンに学ぶ日本林政の今後のあり方」：伊藤やす絵会員 ・「製品開発、生産準備における3次元CADデータの活用」：日名地輝彦会員 ・「沼津市の水と電気」：大嶽陽一会員	12.15会報NO.128
12/26	例会 会員講師による講演 ・中国浙江省中小企業診断セミナーの報告 ① 宮野正克会員 ② 森一明会員 ③ 佐藤仁一会員 ・理科支援特別授業の報告 ① 吉田建彦会員 ② 北本達治会員 ③ 高尾和宏会員 ・「技術士活動の拡大についての提案」：日名地輝彦会員	3.15会報NO.129
2010 2/4	例会 スズキ自動車歴史館 見学（於スズキ自動車本社） 講演「21世紀浜松のものづくりー浜松地域の産業支援ー ：はままつ産業創造センターセンター長 塩田進氏 はままつメッセ2010 見学 総会 講演：「日中友好技術支援活動の現況と今後の展望」 日本シニアボランティア協会常務理事 市川松樹氏 「技術士50年 海外技術協力」講師：会員 清水康夫氏	6.15会報NO.130
7/23	例会 沼津工業団地 視察見学	9.15会報NO.131
10/9	例会 会員講師による講演 ・「自動車用電池の今後を考える」：加藤和仁会員 ・「最近のモバイル動向」 野々垣智樹会員 ・「鉄道の電機設備を落雷から守る」：岡井政彦会員 ・「災害時における市民への復興まちづくり助言に関する協定」：木村芳正会員	12.15会報NO.132
12/25	例会 講演：「機能性食品について～グルコサミンを中心に～」 焼津水産化学工業株式会社 機能性食品開発部長 又平芳春氏 会員講師による講演 ・「才能教育の世界・日本の動向」：北本達治会員 ・「地質調査業における最近の話題」：大井寿彦会員 ・「偽造防止対策と「透かし模様紙」：久保嶋勝巳会員 ・「静岡市の都市復興について」：専務理事 山下久吉	
2011 2/9	例会 本田宗一郎ものづくり伝承館見学 浜松市天竜区役所見学（免震装置を導入して建設中） 講演：「浜松型次世代交通の提案」 静岡大学工学部 戸田三津夫准教授	3.15会報NO.133

日付	行事・例会等	会報
4/23	<p>総会</p> <p>講演：「レアアースの危機」 鈴木宣二技術士事務所 鈴木宣二氏 「中小企業診断士と中小企業診断協会の活動」講師 中小企業診断協会 静岡県支部長 菊間範明氏</p>	6. 15会報NO. 134
7/15	例会 特種東海製紙株式会社 三島工場 見学	9. 15会報NO. 135
10/14	例会 中部電力(株)東清水変電所 周波数変換設備 見学	12. 15会報NO. 136
12/10	<p>例会 佐鳴湖 現地見学</p> <p>講演：「佐鳴湖の水質改善と現状」 静岡大学工学部 戸田三津夫准教授</p>	3. 15会報NO. 137
2012 1/21	<p>平成23年度地域産学官と技術士の合同セミナー</p> <p>静岡県内の危機管理－東日本大震災を受けて産学官の取り組み－</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「静岡県の危機管理」：静岡県危機管理部 危機報道監 岩田孝仁氏 ・「近年の豪雨災害と災害情報をめぐる」 ：静岡大学防災総合センター副センター長 牛山素行准教授 ・「静岡市の危機管理」：静岡市危機管理部防災対策課長 石原英登氏 ・「災害時の企業BCP-東日本大震災時のBCP成功事例と 失敗事例から学ぶBCP策定のポイント」 ：静岡BCP普及研究会副会長 中小企業診断士 石井洋之氏 	
4/21	<p>総会</p> <p>記念講演：「ガソリン自動車のEV化とその周辺状況」 株式会社タジマモーターコーポレーション取締役 田嶋直信 氏 「世界初の挑戦 小惑星探査機“はやぶさ”その全貌」 独立行政法人宇宙航空研究開発機構教授 久保田 孝 氏</p>	6. 15会報NO. 138
7/13	<p>例会 富士通沼津工場 見学</p> <p>例会 会員講師による講演</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ボリビアにおける上下水道維持管理技術指導」：牧野好秀会員 ・「磚茶と新しい茶の機能性」：清水康夫会員 ・「JABEEの活動内容」：北本達治会員 ・「裁判のための科学」：杉山 武彦会員 ・「第42回日韓技術士会議報告」：岡井政彦会員 中村央会員 ・「日本技術士会全国大会報告」：仁科 憲会員 ・「浙江省との技術交流の延期」：会長 吉田建彦 ・「ふじのくに建設エキスパート制度に関して」：専務理事 長嶋滋孔 <p>静岡商工会議所と連携した企業診断：井辺博光会員</p> <p>広域ビジネス商談会2012：山下久吉会員</p>	<p>9. 15会報NO. 139</p> <p>12. 15会報NO. 140</p>
12/15	<p>例会 外部講師及び会員講師による講演</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「技術士の役割とミッション」：山之上 誠会員 ・「災害に関する法律とまちづくりアドバイザーへの期待」 ：静岡市 都市局 都市計画部 八木清文氏 安藤吉尊氏 ・「BCPによる被災後の復旧対応計画」：小久保優会員 ・「東日本大震災とICT(情報通信技術)」：静岡県立大学 湯瀬裕昭准教授 	3. 15会報NO. 141
2013 2/14	<p>例会 浜名湖養魚業協同組合鰻養殖場・加工工場 見学 春華堂うなぎパイファクトリー工場 見学</p>	

日付	行事・例会等	会報
4/20	<p>総会</p> <p>記念講演：「インキュベーション施設の役割と現状」 中小企業基盤整備機構 金田国久氏</p> <p>「SONY、PANASONIC は何故SAMSUNGに勝てないか」宮野正克会員</p> <p>「古代日本の超技術」 静岡理科大学 志村史夫教授</p>	6. 15会報NO. 142
7/19	<p>例会 富士フィルム(株)富士宮工場 富士宮市中心部再開発 見学</p>	9. 15会報NO. 143
9/20	<p>事業 ふじのくに広域ビジネス商談会・販売会2013 出展報告</p>	
10/	<p>例会 外部講師及び会員講師による講演</p> <p>・「静岡県技術士協会から静岡県支部化について考える(その2)」：会長 岡井政彦</p> <p>・「地震先行現象の科学～前兆的な電磁気シグナル発生に関するセンターの取組み」 : 東海大学海洋研究所地震予知研究センター特任講師 竹内昭洋氏</p>	12. 15会報NO. 144
12/15	<p>例会 基調講演その1 (技術士の社会認知)</p> <p>「一般市民や小中学生を対象にした社会貢献」 (愛知県技術士会 野々部顕治代表幹事 中部支部理科支援委員長)</p> <p>基調講演その2 (技術士の責務)</p> <p>「技術者倫理について」 吉田建彦会員</p>	3. 15会報NO. 145
2014 1/25	<p>事業 2013 年度 西部地区例会報告(浜松市沿岸域防潮堤試験施工現場見学)</p>	
2/1	<p>事業 2013 年度 中部地区例会報告(第3回静岡市災害協定研究会を兼ねる)</p>	
2/22	<p>例会 中部電力浜岡原子力発電所 見学</p>	
4/19	<p>総会</p> <p>記念講演：「雷現象と雷害対策の現状」</p> <p>電力中央研究所名誉研究アドバイザー 運輸安全委員会委員 横山 茂 工学博士</p>	6. 15会報NO. 146
6/21	<p>例会 外部講師及び会員講師による講演</p> <p>・「3Dプリンターとは」：静岡理科大学 講師 鹿内佳人氏</p> <p>・「3Dプリンターの活用事例」：静岡理科大学教授 土屋高志氏</p> <p>・「静岡県事業引継支援センターについて」 : 静岡県事業引継センター 統括責任者 清水至亮氏</p> <p>会員による活動報告</p> <p>・村瀬武雄会員 ・小嶋克美会員 ・野々垣智樹会員</p>	9. 15会報NO. 147
8/23	<p>事業 災害協定研究委員会勉強会：静岡市役所 開発指導課 藤巻副主幹</p>	12. 15会報NO. 148
9/12	<p>例会 陸上自衛隊富士学校 見学</p>	
12/20	<p>例会 外部講師による講演</p> <p>・「最近の橋梁を取り巻く環境～国内外の調査報告を交えて」 : (一社)日本建設機械施工協会施工技術総合研究所 部長 谷倉 泉氏</p> <p>・「ポリテクカレッジ浜松校の役割と技術士への期待 ～課題山積のこれからを皆さんと考える」 : 厚生労働省 東海職業能力開発大学校 浜松校校長 長瀬安信氏</p>	3. 15会報NO. 149
2015 1/24	<p>西部地区例会</p> <p>・「浜松イノベーションキューブについて」：吉田建彦会員</p> <p>・「画像式2次元座標測定器の開発・制作・販売」 : AT メトリック(株) 社長 豊田篤史氏</p> <p>・「画像処理・動画解析技術を利用したスポーツ上達 ソーシャルネットワークワーキングサービスの開発・運営」 : (株)SPLYZA 社長 土井寛之氏</p>	
1/31	<p>中部地区例会</p> <p>・「企業活動とCSR」 (一社)静岡県環境資源協会 専務理事 平井一之氏</p>	

日付	行事・例会等	会報
2/14	例会 高柳記念未来技術創造館の見学 静岡大学・中日新聞連携講座2014「浜松発！未来の社会」での講演会	
3/17	事業 国連防災会議参加「巨大化する自然災害に備える技術者の役割」発表：關会員	
4/18	設立準備総会 記念講演：「理工系プロフェッショナル人材の育成と技術士の役割」 静岡理工科大学 学長 野口 博氏	6.15会報NO.150 (第01号)
8/8	式典 日本技術士会 中部本部 静岡県支部 設立記念式典 記念講演：「現代社会において技術士に求められる役割」 前静岡大学 学長 興 直孝氏	9.15会報NO.151 (第02号)
8/9	事業 第一回親子防災教室	
	事業 テクノロジーカフェ	
1/15	・「ベアリングのお話」：吉田建彦会員	
2/19	・「土砂災害のお話」：柴田達哉会員	
3/13	・「世界の水事情と、気候変動の現状と課題」井辺博光会員	
4/14	・「自動車を動かす電池の話」北本達治会員	
5/20	・「コンピュータはどのように計算しているか」山下久吉会員	
6/16	・「浜松防潮堤のお話」關 尚彦会員	
7/16	・「世界に誇れる日本の水道技術」牧野好秀会員	
8/18	・「昼と夜、夏至と冬至はなぜ生じるか」吉田建彦会員	
8/19	・「濁った水もたちまちきれいな水に変身」井辺博光会員	
8/20	・「モーターを作って、回してみよう」岡井政彦会員	
9/11	・「テクノロジーの光と影」五味道隆会員	
10/27	・「最近の中国産業事業と日中対比」宮野正克会員	

3. 活動の思い出

3.1 浙江省との技術交流

2009 年以降に行ってきた中国浙江省との技術交流について記す。

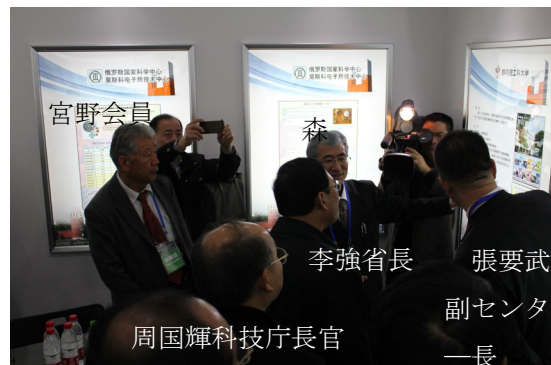
2009 年に浙江省から静岡県に技術交流会への招待があり、日中友好協議会からの参加要請で、佐藤仁一会員、宮野正克会員、森の 3 名で参加。中華人民共和国建国 60 周年記念行事の一貫として浙江省、静岡県、栃木県、福井県の友好 4 省県合同開催で行われ、栃木県支部、福井県商工会議所と一緒に参加。省都、杭州市の世界遺産、西湖のほとりのホテルでの交流祝賀会に参加し技術講演を行った。その後分散して省内の大学や企業を訪問した。栃木県はこのとき浙江省科学技術庁の外郭団体で国際交流の実行部隊である浙江省対外科学技術交流センターと技術交流覚書を交わし、毎年相互訪問を継続している。

2012 年には浙江省科学技術庁より、ドイツ・日本とのビジネスマッチング会に招待され、支部内に技術交流検討会を立ち上げた。また当時の吉田会長より王対外科技センター長に書簡を送り「技術交流の意思」を伝えた。また技術交流覚書の原案を作成した。残念ながら 2012 年は尖閣の問題で招待がキャンセルされたが、12 月ギリギリで浙江省が川勝県知事一行を招待し、省県友好 30 周年記念事業は予定通り行われた。静岡県は当時、交流事業を行った日本で唯一の県だった。浙江省が静岡県との友好を重視していることが分かる。

2014 年 12 月には浙江省科学技術庁より、浙江省科学技術庁専属の展示施設「浙江科技大市场」完成祝賀会に招待があり、宮野会員

森一明と森の 2 名で参加した。日本技術士会としては静岡県支部のみの参加となった。新展示施設への常設展示、セミナー講演、企業診断を行った（写真 1）。

写真 1



2015 年 1 月には日中友好協議会の要請で、専門家派遣可能性調査のため、当時の岡井政彦会長、井辺博光会員、小嶋克美会員、中小企業診断士協会の小川裕史氏が浙江省内の機関や企業を訪問した。このとき浙江省対外科学技術交流センターも訪問し、静岡県支部と組織対組織の交流を行うことで合意した。2009 年からの技術交流は全て浙江省対外科学技術交流センターを通して行っている。

2015 年 6 月には浙江省科学技術庁から静岡県支部に国際技術マッチング会への招待があり宮野会員と森の 2 名で参加、日本技術士会として栃木県支部と協同で活動した。世界から 9 カ国の科学者と技術者が参加した。第 2 の都市、寧波市内のホテルでの開会式のあと展示会出展ブースで説明、交流を行った。日本技術士会は要請により 3 都市で「機械加工技術講座」と「5S 管理と 3H の運用講座」を講演し、また企業診断をおこなった。

今後も技術交流を継続していきたい。

3.2 産学官セミナー

長嶋滋孔

「地域産学官と技術士の合同セミナー」は公益社団法人日本技術士会の主催行事であるが、静岡県開催を依頼されて静岡県技術士協会が準備実行したものである。

テーマは東日本大震災を受けて静岡県内の危機管理とし会員各位のリスクマネジメントに資する講演を企画した。

官は、静岡県から東日本大震災以来ご多忙な危機管理報道監の岩田孝仁氏に静岡県の危機管理対策について講演を依頼し、静岡市から災害発生時の対策について危機管理部防災対策課長の石原英登氏にお願いした。

学を代表して静岡大学防災センターの牛山素行准教授に「豪雨災害と災害情報」をテーマとした講演をお願いした。先生は豪雨災害が発生するとNHKの番組に解説者として出演されているお方である。

産業界を代表して災害発生後早期に復旧し生産活動を再開するための課題について、静岡県BCP普及研究会副会長で中小企業診断士の石井洋之氏に講演を依頼した。

開催当日は主催者である公益社団法人日本技術士会より会長の内村好氏が出席し、中部地域本部からも役員の参加があり、多数の会員の出席をいただき、好評裏に終了した。

内容は以下のとおり

「地域産学官と技術士の合同セミナー」

① 日時：2012年1月21日（土）

13：15～17：00

② 会場：静岡労政会館 5F

③ 参加者：60名

（技術士49名、一般11名）

④ 内容：静岡県内の危機管理-東日本大震災を受けて産学官の取り組み-

・開会の辞

公益社団法人日本技術士会中部本部
副本部長 吉田建彦

・主催者挨拶

公益社団法人日本技術士会
会長 内村好

・「静岡県の危機管理」

静岡県危機管理部
岩田孝仁 危機報道監

・「近年の豪雨災害と災害情報をめぐる課題」

静岡大学防災総合センター
副センター長 牛山素行 准教授
－休憩－

・「静岡市の危機管理」

静岡市危機管理部防災対策課
石原英登 課長

・「災害時の企業BCP」

静岡県BCP普及研究会副会長
中小企業診断士 石井洋之氏

・まとめ・質疑応答

司会 中部地域本部災害対策委員会
委員長 木村芳正

・閉会の辞

公益社団法人日本技術士会
中部本部長 辻喜礦

・懇親会：クーポール会館

3.3 歴代会長の思い出

3.3.1 歴代会長の思い出 木村芳正

私が静岡県技術士協会会長になったのは平成16年でした。そもそものきっかけは所属企業の代表取締役が協会の会計幹事に就任し、例会のたび補佐役として会費徴収のお手伝いをしていたのが目に留まったのでしょうか。東部地区担当例会時に、会長からたつての願いとして会計幹事および専務理事を任せられたことが縁となり、その後会長をお引き受けした次第です。

専務理事就任の初仕事として県の発明協会から勤務先の(株)建設コンサルタントセンターへ事務局変更をする際、引継資料を受取りに行った帰り、天候の変化でそば降る小雨の中を傘もなく大量の資料を抱えて屋根のない停留所でバスを待ったこと、会長就任時には勤務先のISO9001認証取得責任者を同時に拝命し、本来業務とISO認証取得業務があり、協会会長職を全うできるか不安なスタートを切ったこと、静岡県技術士協会創立40周年記念式典では、会長挨拶で「遵守(じゅんしゅ)」を「そんしゅ」と読み違えたことなどが、任期中に開催した例会等とともに懐かしい思い出としてよみがえります。

会計幹事、専務理事、会長いずれの役目も当時の他の常任理事各位および会員の皆様方のご支援とご協力を戴き、何とか無事に役目を終えることができました。とくに創立40周年の行事には、創立40周年記念事業実行委員会の委員長はじめ委員各位のご協力の賜物で行事を遂行することができ

ました。これらお世話になりました皆様方には、この紙面をお借りして深謝の意を表したく存じます。



3.3.2 歴代会長の思い出 神立 信

静岡県技術士協会の公益社団法人日本技術士会中部本部静岡県支部へ移行が無事達成されました事をお祝い申し上げます。支部への移行に際し、岡井正彦様ほか関係者の皆様のご尽力に感謝申し上げます。

私は2000年の静岡県技術士協会専務理事への就任から2006年の同会長就任まで足掛け8年間、協会執行部の三役を務めさせていただきました。

また、協会会長が兼任する事になっていた日本技術士会中部支部静岡県幹事として中部支部内の活動にも参加致しました。

これらの活動を通じ、常に心掛けていたのは協会の構成員である日本技術士会所属会員と非所属会員の垣根の無い自由な集いの場の提供でした。

そして会員それぞれの専門分野の知識や経験を交換し合う場です。それぞれが持つ専門分野外の情報は新鮮かつ技術分野の視野を広げる絶好の機会でもありました。

しかし、日本技術士会所属会員と非所属会員で構成される静岡県技術士協会は日本技術士会本部としては正式な下部組織として認め難く、日本技術士会所属会員のみで構成される組織に改組するよう勧告をされました。

そこで玉虫色の決着と言うべきか、こじつけと言うべきか、色々な批判が有りましたが、『静岡県技術士協会は日本技術士会所属会員で構成される日本技術士会中部支部傘下の静岡県技術士会を内包する組織である』と

定義する旨、協会規約を改定しました。これは、将来の日本技術士会傘下の下部組織化を目指す為の過渡的な処置でもありました。

静岡県技術士協会から日本技術士会中部本部静岡県支部への移行は組織の信頼を高め、地方自治体や金融機関からの業務受託を受け入れやすくなり、活動の場が広がりメリットが多いと思います。

一方、公共事業に関連し、資格の有効性が生かせる土木や建設等の部門以外の技術士にとっては魅力に乏しく、自助努力以外に術がない現状に変わりはないように思えます。

私の執行部三役在任中は諸兄のご協力の元、重責を何とか果たす事が出来ましたが、皆様のご期待に応える事が出来たかどうか甚だ自信がありません。

例会の立案に際しては出来る限り多くの会員に参加頂けるよう内容を吟味し、多数の参加を期待しましたが、終わってみるともっと多くの方々に来て貰うにはどうすればいいのか、時間は適当だったか等々、課題が残りました。課題を解決すべく次回の企画を考える・・・の繰り返しでしたが、いま振り返ると大変でしたが、遣り甲斐のある充実した時間でした。皆様とご一緒に過ごさせて戴いた時間は小生にとって貴重な思い出でした。

皆様の益々のご活躍と御健康をお祈り申し上げます。



3.3.3 歴代会長の思い出 守屋文二

静岡県技術士協会は設立から 50 周年を迎えられたことを心よりお喜び申し上げます。

設立当時、会社人間であった私は昭和 49 年から協会へ入会しましたが、協会の例会に出席してみて驚かされました。当時の例会は現在のような事例発表形式ではなく、出席した会員全員が一人ずつ持ち時間 3 分程度で“現在どのような仕事をしているか、困っていることは何か”を発表し、全員の発表が終了した段階で困っていることに対し他の専門の技術士の方から解決方法のアドバイスを戴いたり、場合によっては現地まで出張して解決方法を指導して下さったことです。現に私も会社業務の中で工場排水処理や騒音対策で問題を抱えており、解決方法に悩んでいたところ、専門の技術士の方が現場と一緒に状況チェックをおこない解決策を提案していただきまし

た。また、逆に私も他の会員の方の悩みに対してアドバイスしたり現地へ行って解決方法を指導したこともありました。まさに問題解決を“助けたり助けられたり”したことです。従って例会は非常に活気に満ちており、今、振り返って考えてみますと非常に楽しく、また懐かしく思い出されます。



今年 4 月に静岡県技術士協会は終幕となり、新たに公益社団法人日本技術士会中部本部静岡県支部が発足しましたが、技術士協会で蓄積された力を静岡県のために発揮していただき、今後ますますご活躍されることを祈っております。

3.4 感謝状と記念品贈呈

山之上誠・加藤和仁

平成27年4月18日(土)にクーポール会館で開催された静岡県支部設立準備総会において、静岡県技術士協会発足50周年を記念して永年技術士協会の活動に協力をいただいた下記の賛助会員、名誉会員、名誉会員ではないが会長を務めた会員へ感謝状と記念品を贈呈いたしました。

賛助会員 (9社)

株式会社共和コンサルタント
株式会社中部総合コンサルタント
吉田測量設計株式会社
株式会社建設コンサルタントセンター
株式会社東日
株式会社日本地理コンサルタント
太洋電機株式会社
静岡コンサルタント株式会社
昭和設計株式会社



昭和設計株式会社 代表取締役社長 山村卓道氏

名誉会員 (21名)

渡邊 三義 (機械、衛生、経営工学)
吉澤 淳 (化学)
磯部 俊夫 (金属)
芦沢 五一 (建設)
山本 正男 (建設)
磐本 正夫 (水道)
清水 康夫 (農業)

佐藤 仁一 (電気)
松尾 博孝 (機械)
伊藤 和美 (建設)
藤原 正臣 (建設)
豊島 金吾 (上下水道)
金澤 啓悟 (農業)
久保嶋 勝巳 (化学)
内田 弘 (建設)
森 稔夫 (電気電子)
木村 芳正 (建設、総合技術監理)
石川 正人 (農業)
海野 泰一 (農業)
川瀬 順治 (建設)
石野 達佳 (機械)



磐本正夫氏

名誉会員ではないが歴代会長を務めた会員 (5名)

神立 信 (機械)
守屋 文二 (経営工学)
渡邊 佐一郎 (上下水道)
吉田 建彦 (経営工学、総合技術監理)
岡井 政彦 (電気電子)



守屋文二氏

4. 県支部発足について

4.1 支部化に至る経緯

吉田建彦

1. 技術士会の県組織

技術士の全国組織である公益社団法人日本技術士会には約 14,000 人程度が加入している。日本技術士会の統括本部の下には、北海道から九州まで 8 つの地域本部が設けられ、静岡県は愛知、岐阜、三重 3 県と共に中部本部管轄となっている。

県単位の組織としては平成 24 年までは、道府県ごとに技術士会(静岡県の場合は静岡県技術士協会)が設けられ、各県技術士会は統括本部や地域本部とある程度連携はしているものの、独自の規約、会員、収支予算、活動計画を持ち、地域活動を行ってきた。

2. 静岡県技術士協会の活動

静岡県技術士協会は昭和 40 年(1965 年)10 月 26 日、発足した。会員を対象とする例会や多くの地域活動に取り組んできた(平成 27 年 3 月末会員数 108 名)。

3. 県支部設立の必要性

平成 23 年ごろから統括本部を中心に、県支部設置の必要性が唱えられ始めた。その背景には現代社会で技術・技術者の果たす役割が大きくなってきているにもかかわらず、技術士組織が全国的に一体化していないために、技術士および技術士会の社会的認知度が不十分であるとの認識があった。

技術士組織を全国一元化し、県支部を設置することで、技術士への社会からの要請も増やし、逆に要請にも対応できる。県支部化することで

(1) 量的には日本技術士会の会員が自動的に県支部会員になるので、会員数が増える(静岡県の場合は約 1.7 倍になる)

(2) 質的には、会員の専門分野が一段と多岐に亘り、分野を広げられる
全国的に各県ごとに支部設置の動きが始まり、平成 27 年 5 月時点で 26 県の支部が設立された。

4. 静岡県支部設立の経緯

平成 26 年中部地域本部と中部 4 県技術士会が県支部設置の方針を決め、平成 26 年 11 月、県ごとに日本技術士会会員による賛否投票が行われ、静岡県では

県内の技術士会正会員： 175 名

賛同確認結果(賛同者数)： 123 名

(反対無効票)： 3 名

正会員に対する賛同者比率： 73%

この結果、県支部設置が決まった。静岡県技術士協会の執行部が中心となって県支部設立を行うこと、協会の活動等を引き継いで県支部を設置することが平成 26 年 4 月 19 日の県技術士協会定時総会で承認された。その結果、平成 27 年 3 月 31 日を以て静岡県技術士協会は発展的に解散、実質的には 4 月度から支部活動初年度が始まった。4 月 18 日支部設立準備総会、8 月 8 日支部設立記念式典を開催した。

4.2 静岡県支部設立記念式典 開催報告

山之上誠・加藤和仁

1. 設立記念式典 概要

日時：平成 27 年 8 月 8 日（土）

会場：クーポール会館（静岡市）

参加者：101 名（会員 76 名、来賓 18 名、
他県技術士会 3 名、賛助会員 4 名）



式典風景

2. 式次第

1. 開会の辞 副支部長 長嶋 滋孔
2. 式辞 支部長 山下 久吉
3. 来賓紹介 支部長 山下 久吉
4. 来賓祝辞
5. 祝電披露
6. 事業計画 副支部長 岡井 政彦
7. 閉会の辞 副支部長 長嶋 滋孔
8. 記念講演
9. 記念パーティ



静岡県支部 山下支部長

3. 来賓御芳名

静岡県知事	川勝 平太様
参議院議員	新妻 秀規様
静岡市長	田辺 信宏様
静岡大学学長	伊東 幸宏様
前静岡大学学長	興 直孝様
静岡理工科大学学長	野口 博様
静岡県日中友好協議会理事長	
	栗原 績様
静岡県産業振興財団理事長	
	櫻井 透様
静岡商工会議所会頭	後藤 康雄様
静岡県中小企業診断士協会会長	
	堀江 良則様
静岡団塊創業塾理事長	原田 和正様
日本技術士会専務理事	高木 譲一様
中部本部本部長	渡邊 好啓様
岐阜県支部長	森川 英憲様
愛知県支部長	水野 朝夫様
三重県支部長	平田 賢太郎様



全体集合写真（総勢 101 名）

4. 来賓祝辞

(1) 静岡県知事 川勝 平太様

(代理) 静岡県交通基盤部長 野知 泰裕様



貴会の前身である静岡県技術士協会には昭和40年に設立されて以来、農業関係の電気通信設備および電気設備の鑑定、検査や技術職員の技術力向上のためのふじのくに建設技術エキスパートへの登録、また小学生を対象とした防災講座への講師派遣や中国浙江省との技術交流など多くの優れた活動により本県に多大な貢献をいただいておりますことに対し、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

本県では誰もが豊かで快適に暮らすことができる富国徳の理想郷「ふじのくに」の実現のため静岡県総合計画後期アクションプランを昨年3月に策定し、徳のある豊かで自立した地域づくりを進めています。「ふじのくに」の自立の実現へ向けてヒト、モノ、地域を結ぶ基盤作りに取り組んでおり、安全安心、活力・交流、環境・景観の3つの重点分野の整備を進めているところであります。このように県民の皆様が安心して暮らすことができる社会を通じ、社会資本整備の着実な推進と既存の社会ストックの有効な活用に取り組んでおり、そのためにも高度な専門技術と豊かな経験や知識を有する貴会の力が一層求められております。

皆様におかれましては静岡県支部の設立を機に専門技術の向上や伝承、また技術系人材の育成などに一層のご尽力をいただき、本県の更なる発展のためご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(2) 静岡市長 田辺 信宏様

(代理) 静岡市都市局長 塚本 孝様



活動母体であった静岡県技術士協会から数えますと本年度は50周年目の年でもあり、その歴史の中には皆様の数多くの社会貢献などの功績があったと存じます。

当市と貴会との取り組みの一つとして災害時における市民への復興街づくりの助言に関する協定書を平成22年に締結させていただいております。これは巨大地震などによる大規模な災害が起きた時に被災後の街づくりを円滑に進めるため町内会などで作る復興街づくり協議会に対し貴会の会員の皆様に復興街づくりアドバイザーとして助言をしていただくものです。ここ数年では阪神淡路大震災や東日本大震災が記憶に新しいところですが、過去の大規模な震災の教訓を踏まえると都市復興をいち早く進めるには行政だけのマンパワーでは困難であり、地域住民自らによる町の復興を考えて頂くことが不可欠です。そのためには貴会

の皆様のような専門的知識や経験からのアドバイス、支援が非常に重要です。当市では今後ともこの協定を元に大規模な災害が起こった場合には迅速で円滑な復興ができるよう取り組んでいきたいと考えております。そのためにも皆様のご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

(3) 静岡大学学長 伊東 幸宏様
(代理) 静岡大学工学部長 佐古 猛様



静岡県の技術士会と静岡大学は多くのつながりをもっております。例えば、静岡大学の教員が技術士会の講演会の講師を行う、あるいはRAIN房という小中高の理科教育を共同運営するといった様々な面での連携を進めてまいりました。これが今回、この新しい支部の設立によってますます発展していくということを私たちも切に期待しております。

現在静岡大学は大学改革の真っ只中でございます。改革の中でも重要な手段は地域への貢献、社会への貢献というものです。私たちが近隣の方から信頼されて頼りにされる大学へなっていくためには教育・研究の成果をすみやかに地元の方に提供し、それを取り入れていただく仕組みをつくるということが重要であります。地元の企業の

かかえている技術課題については技術士会の皆様と協力しながら解決していくということがますます必要となると考えております。今後とも双方が知恵を出し、切磋琢磨しながら県内の産業や工業の発展を支えることを強く進めていきたいと考えています。

(4) 日本技術士会統括本部 高木専務理事



技術士会は経済産業省が法律をつくり設立したことがきっかけとなっており、省内に事務局を間借りして発足した経緯があります。その後紆余曲折を経て現在の形になっております。改革革新の面では、3.11(東日本大震災)の後、4月に公益社団法人化が認可され、平成23年の時点で関東甲信越の8県、東北の5県で県支部が設立されています。平成25年には九州、昨年は中部の4県が加わり、現在、日本全体で26県の県支部ができています。静岡県支部の設立にあたりましては中部本部からの日本技術士会理事の岡井さん、支部長の山下さんが非常に苦勞されたことに対し、会長からお礼を承っています。また、第20回技術士全国大会を静岡県静岡市(旧清水市)で開催した際には静岡県の技術士の方々にも多大なお世話をいただきましたことについても感謝申し上げます。

技術士は名称独占で業務独占ではありませんが、これにかわるかもしれない話の一つあります。日本技術士会と最高裁判所の事務総局が3年越しで交渉協議を続け、昨年12月にまとめ、民事局と行政局の長官から専門訴訟という技術が絡んでいる裁判の場合には日本技術士会へ推薦を依頼するよう通達が出されました。現在、日本全体で20名近くが専門委員として委嘱され、すでに10件近く、裁判長に対するアドバイザーとして参加しております。また司法登録としては300名ほど登録されています。地裁の所長などから裁判が進みやすくなったと礼状も頂いており、司法における独占業務として技術士が認められたことに匹敵するのではということもできます。

現在技術士は実際に5万人活動しており、その内1万5千人が日本技術士会に属し活動しておられます。

皆様もぜひ横のつながりや横断的な視野を広げるといふ点で日本技術士会を使って頂いて成果を出していただければ、我々としても満足です。

5. 祝電紹介

日本技術士会統括本部 吉田会長、神奈川県支部 清水支部長、山梨県支部 秋山支部長よりご祝電を頂戴しました。ここでは代表して吉田会長より頂いたご祝電をご紹介します。

「日本技術士会中部本部の下に静岡県支部が設立されたことを大変嬉しく思います。これまで準備にあたってこられた皆様方のご尽力に対し敬意を表すものです。静岡県支部の設置により今後ますます本県内における日本技術士会会員の方々の活動が活発化し、本地域の発展に寄与することを心より祈念申し上げます。」

6. 記念講演

「現代社会において技術士に求められる役割」
静岡大学名誉教授、元内閣府政策統括官
(科学技術政策担当)
興 直孝 氏



歴史を画する重大事案（東日本大震災、福島第一原発事故）、異次元のスピードで着実に進んでいる我が国の経済再生から今後の科学技術・学術政策の在り方が問われている。科学技術政策担当としてのご経験から政策面の課題と我々技術士に求められる役割・期待について講演をいただいた。

(1) 東日本大震災を踏まえた今後の

科学技術・学術政策の在り方について将来起こりうるあらゆる事故に備え、自らの社会的役割及び使命を常に検証し、国民の期待や社会の要請に応える体制に変革することが重要である。

①社会の要請を踏まえた人材養成―

将来を支える多様な人材の育成が必要。特に、複雑化、高度化する課題に対し、社会に対する洞察力、柔軟な発想、俯瞰的視点、国際感覚と総合的な取組・対応能力を身に付けた創造的な人材の養成が必要。

②科学技術課題解決のシステムの定着化―

多様な専門知の結集が不可欠。現場のニーズや実際の運用上の課題や分野を超えた連携体制により、新たな社会的ニーズを発掘することが重要である。

(2) 科学技術イノベーション総合戦略

2015の課題（平成27年6月閣議決定）

①第五期基本計画の始動に向けた3つの課題

- 1) 未来産業創造・社会変革に向けた挑戦
- 2) 地方創生の科学技術イノベーション推進
- 3) 東京オリンピック機会を活用した科学技術イノベーションの推進

②科学技術イノベーション創出の2つの課題

- 1) イノベーションの連鎖を生み出す人材等環境の整備
- 2) 経済・社会的課題の解決に向けた重要な取組み

③科学技術イノベーションを担うのは「人」

人口減少・少子高齢化やグローバル人材獲得競争の激化により、人材確保が一層困難になる。高度な専門性と能力を有し、「知」の創出に向けて強い意欲・能力を持った人材が研究開発やイノベーションに関わる多様な場で活躍することが重要。知的プロフェッショナルとして大きなポテンシャルを有する若手や女性への挑戦機会の拡大が喫緊の課題である。また外国人への活躍の場の提供も不可欠である。

(3) 日本再興改訂戦略2015の鍵となる施策 未来投資による生産性革命が重要。

①『稼ぐ力』を高める企業行動に転換―

「攻めのコーポレートガバナンスの更なる強化」、「イノベーションベンチャーの創出」、「アジア等の成長市場への挑戦」。

②新時代への挑戦の加速―

「迫りくる第四次産業革命に応えたIoT・ビッグデータ・人工知能による産業構造・就業構造変革の検討」等。

③個人の潜在力の徹底的な磨き上げ―

「少子化対策、女性・高齢者等の活躍促進」、「変革の時代に備えた人材力の強化・雇用と教育の一体的改革の推進」、「実践的な職業教育の高等教育機関の制度化」等。

(4) 技術士制度の在り方に関する論点整理

①技術士に求められる資質能力

必要な資質能力、知識、技術の抜本的な要素が明示されていない。また、産業界が求めている技術士のコアコンピテンシーも明確に示されていない。

②産業界が直面している当面及び将来的課題

バリューチェーンの強化と拠点戦略が必要であり、これに対応できる人材の確保が不可欠。狭い範囲の知識だけでは不十分であり、グローバルビジネス環境・ICT環境では、周辺技術・関係法令・国際規格・各種マネジメント力、語学力等多様な技量・知識等が求められている。科学技術を応用する製品の開発・製造・販売・サービス等を生業とする企業の技術者は、広い分野の知識と見識を有することが必要。

③産業界が期待する技術士像と在り方

産業界で求められる技術士像は、深い専門性ととともに、技術横断的に広く問題を把握し、解決できる能力を兼ね備えた者。技術者のリーダーとして幅広い基礎技術と基盤技術・技能を有するとともに、知の統合によって、社会的経済的価値を創造する人材（Σ型人材）であるべきである。

(5)技術士・技術士会に対する期待

①東日本大震災を踏まえた技術士宣言（身近に寄り添う取組み、21 技術部門での総合的な対応、各種連携方策そして科学技術コミュニケーターとしての活動）の

重みを真摯に受け止め、着実な実行・信頼の獲得を得ること。

②技術士活動の充実強化の限界への挑戦をすること。

③経済の再生に向けての社会の流れの中で、その存在感の浸透を図ること。

④政府全体における存在感の浸透とその担保措置の在り方を俯瞰的に総括し、遺漏なき展開をすること。第四次産業革命は絶好の機会である。

（以上 講演内容抜粋）

7. 記念パーティ

記念式典の後、記念パーティをクーポール会館 3 階弥生の間にて行いました。参加者は、73 名と大人数の方にご参加いただきました。

記念パーティでは、公益社団法人日本技術士会 中部本部 渡邊本部長と国会開会中にもかかわらず駆けつけてくださった新妻議員（技術士 航空部門）に県支部設立のご祝辞を賜りました。

これまで静岡県技術士協会に所属していなかった会員が県支部化により新しく仲間として加わったことから各部門毎に代表して数名の方にご挨拶をいただき、記念パーティを通じて会員同士の親交も深まりました。また、静岡県支部会員の有志（五味会員・井辺会員等）による寸劇「江戸城松の大廊下」が催されたりと非常に盛会のうちに終えることができました。



中部本部 渡邊本部長



新妻参議院議員

の活動を進めていくとともに、昨年度に引き続き、中国浙江省対外科学交流センターとの技術交流についても今後継続していく。

CPD 活動の活性化については、技術部門単位の交流を深めて専門分野別の講演会などを企画し、会員相互に対して多様な CPD 講座を提供する。

(2) 県支部で引き継ぐ各種協定

＜静岡県技術士協会と外部団体との契約＞

①平成 21 年 社団法人中小企業診断協会
静岡支部と契約

「中小企業等の支援に関する覚書」

②平成 23 年 静岡市と契約

「災害時における市民への復興まちづくり
の助言に関する協定書」

③平成 24 年 静岡商工会議所と契約

「技術評価に関する協定書」

＜静岡県技術士協会が定めていた内規＞

④平成 24 年「静岡市との災害時における
市民への復興まちづくりの助言に関する
協定書」への対応内規

(3) CPD 例会運営

＜設立準備総会＞

日時：平成 27 年 4 月 18 日

場所：静岡クーポール会館

議事

- ・平成 27 年度静岡県技術士協会の事業、
会計報告
- ・賛助会員、名誉会員への感謝状と記念品
贈呈
- ・平成 27 年度事業および予算案報告ほか
- ・記念講演
静岡理工科大学学長 野口 博氏
「理工系プロフェッショナル人材の育成

と技術士の役割」

＜県支部設立記念式典＞

日時：平成 27 年 8 月 8 日

場所：静岡クーポール会館

※詳細は別項支部設立記念式典に記載

＜CPD 定例会＞

①第 1 回例会 平成 27 年 6 月 20 日、静岡
クーポール会館（実施済み）

講演 東海大学海洋学部 坂本泉准教
授

「自然の猛威と恩恵」

会員報告

「国連防災世界会議シンポジウム」参
加報告

「静岡県産業振興財団事業評価」受託
報告

②第 2 回例会 平成 27 年 10 月 31 日 東
名高速由比港橋桁連結工事 見学会

③第 3 回例会 平成 27 年 12 月

④第 4 回例会 2016 年 2 月

⑤～⑦東部、中部、西部地区例会の開催

＜その他に計画中の CPD 例会＞

- ・国立研究開発法人海洋研究開発機構
科学掘削船“ちきゅう”見学会
- ・静岡県と中国浙江省の友好提携を基軸と
する中国との技術協力の今後の計画シン
ポジウム

(4) 受託事業

①静岡県産業振興財団

「ものづくり・商業・サービス革新補助金
に係る事業の審査員」

中小企業への革新補助金を出すに当た
り、応募された案件について事前の審

査・評価を実施。会員5名が応募し、111社からの案件について審査を行った。さらに8月にも追加の審査要請に対応した。
(実施済み)

②静岡商工会議所静岡県事業引継支援センター
連続炭化装置の技術的優位性評価をM&Aの視点から実施のほか、4件の技術的な企業評価を実施した。(実施済み)

今後受託予定

③静岡県交通基盤部農地局

県農地局および農林事務所(東、中、西)が整備した農業関係の電力設備、通信設備の工事に関する事前設計審査、製品の工場審査立会、竣工確認と検査。主として電気電子部門の技術士が対応。

なお、受託事業については、受託した会員から1件につき収入の1割(ただし2万円を上限)を県支部会計に納めていただき、支部運営財源の一部として活用している。

(5) 技術士の社会貢献

<災害支援>

①静岡市と災害時の支援協定

静岡市との「災害時における市民による復興まちづくりの助言に関する協定書」について、県支部は、災害協定研究委員会で個人の知識の集積でレベルアップを図り、関係者、関係団体とのネットワーク体制強化を今後も計画的に充実する。

静岡市と共に実施するワークショップでは、技術士を認知していただく絶好の機会として、積極的に活動する。他の自治体(静岡県、牧之原市など)との同様協定も検討中であり、静岡県地震防災センターとタイアップしての防災教室など、静岡県の防災

意識向上活動に協力をしていく。



静岡市災害支援ワークショップ

②防災支援員の募集(日本技術士会の災害支援活動の一環)

中部本部管轄地域に自然災害が発生した時に、(技)中部本部が現地支援を行う。県支部内では現在15名の会員から事前の支援登録があり、その技術部門内訳は、次の通りとなっている。

建設	6名(1名)
電気電子	4名
経営工学	1名
上下水道	2名
応用理学	1名
農業	1名
衛生	(1名)
総合	(4名)

※()内は複数部門登録者再掲

<理科授業活動>

①テクノロジーカフェ

平成27年1月より月に1回開催を開始した。「まだまだすごい日本の技術」のテーマのもと技術士が市民に技術を語る。

会場はシニアライフセンター[くれば]で、月に1回のペースで実施。カフェで講演をしたいという積極的な会員を募集中である。

②理科特別授業

「小学校からの理科特別授業の要請」

毎年4月に技術士会が提供できる授業講座を、静岡県教育委員会にお知らせし、県内の各学校へ連絡して頂いている。また浜松RAIN房には登録5件の講座の理科授業や、防災教室などに支援いただいている

なお理科特別授業の活動に対しては、日本技術士会から1回あたり1万円の活動補助費が支給される。

(6)その他

①ホームページの管理運営

<http://ipej-shizu.sakura.ne.jp>

会員状況の把握に努め、常に最新の状況を維持できる体制をつくる。またメーリングリストの維持、管理を適切に行う。

②会報の発行

年4回発行（6月、9月、12月、3月）

ホームページに掲載し、会員への印刷物の配布は行わない。ただし賛助会員に対しては印刷物として配布する。

③例会等の連絡

日本技術士会の同報メールと県支部のメーリングリストの2つの電子メールの手段により各種連絡を行う。ただし賛助会員に対しては、郵送による行事案内とする。

4. 運営体制

次頁に県支部の役員体制と幹事・委員会等の所掌事項を示す。基本的に日本技術士会中部本部の委員会体制に準じた組織形態を構成する。

(1)静岡県支部幹事

支部長	山下久吉
副支部長	長嶋滋孔
副支部長	岡井政彦
副支部長（事務局長）	大井寿彦
中部担当幹事	柴田達哉、山之上誠、 關尚彦
西部担当幹事	井辺博光、森 一明、 仁科 憲、中村 央
東部担当幹事	山下久吉、大井寿彦、 土屋国彦、齋 強志、 加藤和仁
会計幹事	土屋国彦
（会計）監事	五味道隆、松本亨

(2)静岡県支部【委員会】 ※委員長

CPD委員会	井辺博光 [*] 、關 尚彦、 長嶋滋孔、大嶽陽一
広報委員会	齋 強志 [*] 、加藤和仁、 山下久吉
防災委員会	山之上誠 [*] 、吉田建彦、 近藤 衛
（災害協定研究委員会）	
	山之上誠 [*] 、關 尚彦、 吉田建彦
社会貢献委員会	井辺博光 [*] 、森 一明
（テクノロジーカフェ）	
	山之上誠 [*] 吉田建彦
（理科支援委員会）	
	吉田建彦 [*] 柴田達哉

事業開発委員会	山之上誠 [*] 、柴田達哉、 鈴木敏弘
---------	----------------------------------

(3) 統括本部役員

理 事 岡井政彦
防災支援委員会 吉田建彦

(4) 中部本部役員

【副本部長】 山下久吉
【中部本部幹事】 吉田建彦、長嶋滋孔、
井辺博光、山之上誠
【委員会】 ※委員長
総務委員会 大井寿彦
企画委員会 長嶋滋孔
CPD 小委員会 井辺博光※
修習技術者支援委員会 森 一明

試験委員会 中村 央
広報委員会 五味道隆
活用促進委員会 山下久吉
社会貢献委員会
(防災支援委員会) 吉田建彦※
山之上誠
仁科 憲
(理科支援委員会) 吉田建彦

4.4 支部規約(案)

静岡県支部の運営における個別事項に関する手引き (案)

平成〇年〇月〇日 静岡県支部役員会制定

(目的)

第1条 この手引きは、「地域組織の設置運営に関する規則第16条第1項第4号」の規定に基づき、静岡県支部（以下、「当支部」という。）の運営における個別な事項について定める。

第1章 基本運営

(役員会の開催)

第2条 役員会は、毎年6回以上の開催を基本とする。

(副支部長および幹事の定数)

第3条 副支部長の定数を5名以内とする。

(運営組織)

第4条 別記表1に掲げる委員会等を設置し、当支部の運営に当たる。

(委員会)

第5条 委員会は、別記表2に掲げる事項を所掌する。

2 委員会委員の定数は、委員補佐を除き30名以内とする。

(年次大会の開催)

第6条 毎年1回以上の開催を基本とする。

(別途内規を設ける)

(交通費支給範囲)

第7条 当支部は以下の場合、対応した会員の交通費について実費相当額を支給することとする。

(1)当支部の代表として出席する外部団体の会議等

(2)地域組織委員会が主催する行事運営要員としての行事の参加

(3) その他、支部長が承認した場合

(県支部活動の広報) {必要なら内規を設ける}

第2章 協賛団体

(協賛金)

第8条 協賛団体からの協賛金は、1口10,000円(年間)とする。

(協賛団体の扱い)

第9条 協賛団体の取扱いは、次のとおりとする。

- (1) 協賛団体の代表又はその代理の者は、当支部年次大会に出席し意見を述べることができる。
- (2) 協賛団体は、当支部会誌又はその他刊行物の配布を無償で受け、当支部の事業成果を当支部の了解を得て利用することができる。
- (3) 協賛団体は、当支部が主催する会合、講演会等（懇親会は除く）に協賛金1口当たり2名まで無料で参加することができる。

第3章 事務局

(所在地)

第10条 事務局事務所は、役員会が定める特定の場所に置く。

(体制)

第11条 事務局体制は、次のとおりとする。

- (1) 事務局長
- (2) 事務局次長(当面置かない)
- (3) 事務局職員(当面置かない)

(報酬)

第12条 事務局を務める以下の者には、実費相当の交通費の他、役員会で承認した報酬を支払うことができる。

- (1) 事務局長
- (2) 事務局次長
- (3) 事務局職員

2 前項の規定に基づく報酬の支払いに当たっては、支部長と本人との間において報酬、勤務条件等を定めた覚書を締結し、役員会に付議し、承認を得なければならない。

第4章 その他

(事務所会議室利用)

第13条 中部本部事務所会議室の利用については、別に事務所会議室利用に関わる要領を定め、当支部役員会の了承を得なければならない。

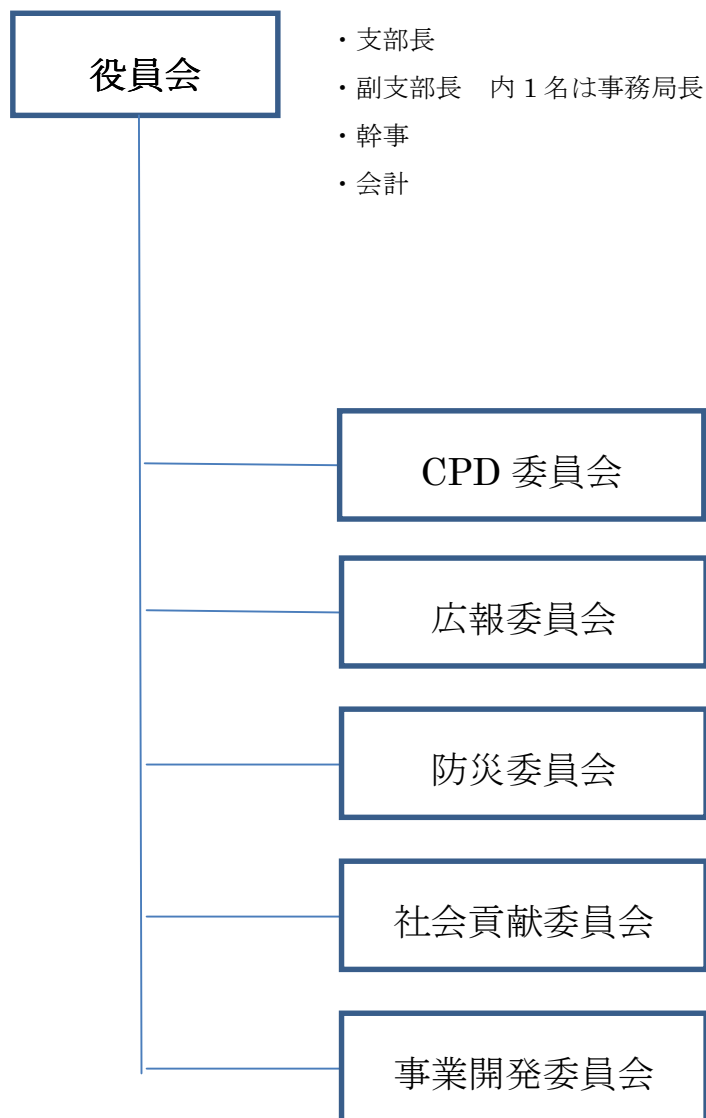
(本手引きの改廃)

第14条 本手引きの改廃については、当支部広報委員会が役員会に付議し、「地域組織の設置運営に関する規則」第16条第1条第2号の規定に従い、中部本部総務委員会の審議を経て当支部役員会において定めることができる。

附則(平成○年○月○日)

この手引きは、平成○年○月○日中部本部総務委員会の審議を経て、平成27年○月○日から施行する。

別記表 1 静岡県支部における組織体制



別記表2 静岡県支部における幹事、委員会の所掌事項

委員会名	所掌事項	中部本部との業務上の対応関係
会 計	支部活動に伴う会計管理すべて	中部本部会計と連携
CPD 委員会	年間の CPD 例会の計画立案と実施。 CPD 参加票の一元管理と発行	中部研修委員会
広報委員会	会報発行（電子版）、会員電子メールリストと支部ホームページの管理	中部広報委員会
防災委員会	災害協定研究会（静岡市）の事業計画と実施 県の防災支援事業の計画と実施 その他役員会が定める活動計画立案と実施	中部社会貢献委員会
社会貢献委員会	小中学校等における理科特別授業計画立案と実施 テクノロジーカフェの計画立案と実施 その他役員会が定める活動計画立案と実施	中部社会貢献委員会 －中部理科支援委員会 都度定める
事業開発委員会	県・市との各種提携事業の計画立案と事業の推進 部外からの各種技術士業務依頼対応 他団体（日中友好協議会など）との連絡・調整業務 その他役員会が定める活動計画立案と実施	中部社会貢献委員会 －中部業務開発委員会

4.5 静岡県支部活動への期待

公益社団法人日本技術士会 中部本部 本部長 渡邊好啓

中部本部 静岡県支部は、本年8月8日の支部設立記念式典を盛大に開催され、活動が動き出しています。私ども公益社団法人日本技術士会中部本部は、公益社団法人としてのガバナンスの観点から、各県単位活動を新たに支部としての設立をお願いし、当地における会員皆様の同意を得て設立の運びとなりました。

この新しい“静岡県支部”は、公益社団法人日本技術士会の会員として共通する立場の活動を担うもので、全国の会員が同じ立場で公益社団法人として社会に向けて活動を行うものです。この先では科学技術の進歩の恩恵も考慮しておりますが、その活動がネット接続等の新しいコミュニケーション等を用いた活動展開も視野に入れております。現状では、まだその実用化まで届いておりませんが、これからの環境改善に努力していきます。

おりしも、近年の我が国における災害の多発や、経済の世界的展開を伴うグローバル化の背景では、ますます科学技術の果たす役割は大きく、かつ、重くなっております。これを機に、私たちの活動が、地域に密着し、大いに社会に貢献できるものになりますように、一体となって励むことをお誓い申し上げます。

その上、当中部本部は全国でも有数のものづくり産業の集積地であり、その中でも静岡県西部地域は一大拠点です。私たちの公益社団法人



日本技術士会の中でも、中部本部地域のものづくり産業が元気にならないと、日本全体の産業も元気になりません。このような新しい動きの中で組織を見直し、会員の活動の見直しを行い、私どもの技術の専門家がこれを支援することが望まれていると思っております。

今回のガバナンス重視の思考では、中部本部特性として、中部4県の地域性を考慮した活動をめざします。よって、支部活動に対する中部本部としての一体的連携活動としても、そこに大きな社会効果も考慮しております。

私は中部本部長としてスローガンを掲げておりますが、これは <明るく・楽しく・役に立つ 中部本部活動！>というものです。このスローガンの主旨に沿って、静岡県におきましても活気ある会員活動となるべく、<活動のスローガン>としていただけますようお願い申し上げます。

編集後記

公益社団法人 日本技術士会中部本部静岡県支部、旧静岡県技術士協会が創立して 50 周年という記念すべき年の冊子の纏め役に携われたことを喜ばしく思うとともに、半世紀分の重みと不慣れな編集作業に戸惑うこともありました。こうして皆様のお手元へ届けることが出来たことにひしひしと感動を覚えております。

無事編集を終えることができたのも、お忙しい中、50 年の歴史を感じるに余りある丁寧で心のこもった原稿をお寄せいただいた皆様のご協力あつてのことと心より感謝しております。編集におきましては精一杯取り組んだつもりですが、不手際な部分がありましたら、ご容赦くださいますようお願い申し上げます。

編集作業を始めるに際し、創立 40 周年の記念誌を大いに参考にさせていただきました。今回の記念誌が、前回の情報を受け継ぎ、また次回へとつながっていくことを祈願しております。

最後に、記念誌作成にあたり、静岡県支部幹事各位ならびに多大なる援助を賜りました関係各位にあらためて御礼申し上げます。

なお、この50周年記念誌は 旧静岡県技術士協会時代の50周年記念誌基金を利用させていただきました。

平成27年12月吉日
幹事を代表して 大井寿彦

公益社団法人 日本技術士会中部本部静岡県支部
旧 静岡県技術士協会
創立 50 周年記念誌

発行日	平成 27(2015)年 12 月 12 日
発行責任者	山下 久吉
発行	公益社団法人 日本技術士会中部本部静岡県支部
印刷	いさぶや印刷工業株式会社 〒410-2322 静岡県伊豆の国市吉田 361-2 TEL 0558-76-1707 FAX 0558-76-3663